

はくちよう
はるな
白鳥になった春菜ちゃん

たちばな さとし
立花 智 作 さく

はるな 春菜ちゃんは幼稚園に通う女子です。春菜ちゃんが住んでいる家の近くに瓢箪の形をした大きな池があります。瓢箪池です。

まいとし 毎年、十月になると瓢箪池にたくさん白鳥がやってきました。

ひょうたんいけ 瓢箪池の周りには田んぼが広がっています。稲刈りの終わった田んぼには落ち穂がたくさん残っています。

クワー、クワー、クワー。

ゆう 夕ご飯を食べていた春菜ちゃんがお母さんに尋ねました。

かあ 「お母さん。お空で何か声がするよ。何の声？」

はくちよう 「白鳥よ。毎年、秋になるとシベリアの方から飛んで来るのよ」

かあ お母さんは答えました。

なん 何でも知りたがる年頃になった春菜ちゃんは、今度はお父さんに尋ねました。

とう 「お父さん。シベリアってどこにあるの？」

ちきゆう 「地球の一番北にある北極海という海が見える所だよ。北極海は夏になっても氷が融けない冷たい海だよ。夏が短いシベリアでは、

くがつ 九月に入ると草や花も寒さで枯れてしまうんだ」

「こつちではコスモスが咲いている頃よ。白鳥はどうして秋になると日本にやって来るの？」

「寒くなるとシベリアでは池や湖が凍り付いて白鳥の食べ物がなくなってしまうんだ。そこで食べ物がある南の方に飛んで来るんだよ」

翌日、幼稚園から帰って夕方の方のテレビを見ていた春菜ちゃんは、夕ご飯の支度をしているお母さんに言いました。

「お母さん、瓢箪池に白鳥が来たんだって。ニュースに出ていたよ」
「春菜、今度の日曜日に瓢箪池に行ってみようか」
「うん」

日曜日。春菜ちゃんはお父さん、お母さんと三人で瓢箪池に出掛けました。瓢箪池には大勢の見物客が栈橋の方を見えています。しばらくすると、パンくずの入ったバケツを持ったおじいさんが栈橋に立って、「来ーい。来ーい」と大声で白鳥を呼んでいます。白鳥おじいさんです。

その日の夜。春菜ちゃんは自分が白鳥になった夢を見ました。

ここは日本から四千キロほど離れたシベリアの大地です。

五月下旬。ひとつがいの白鳥が枯草を集めて直径一メートルほどの巣を作って卵を三個産みました。一月ほどが経って三羽のヒナが生まれました。しかし二羽のヒナは途中で死んでしまいました。一羽はオジロワシに食べられてしまいました。もう一羽は北極海の冷た

い風にさらされて死んでしまいました。残った一羽のヒナが春菜ちゃんです。春菜ちゃんには、去年生まれたお兄さんとお姉さんがいます。九月になりました。短いシベリアの夏が終わろうとしています。

「準備は出来たかい。そろそろ出発するぞ」

お父さん白鳥が家族に言いました。

バタ、バタ、バタ。

白鳥一家は日本に向かって飛び立ちました。

上空を飛行していた白鳥一家は田んぼのなかに瓢箪の形をした大きな池を見つけました。瓢箪池です。

「あそこの池が春までの住まいだよ。降りるよ」

お父さん白鳥が家族に言いました。

バタ、バタ、バタ シュー。

白鳥一家は無事に瓢箪池に到着しました。瓢箪池には大勢の先客がいました。オナガガモ、ヒドリガモ、オオバン、キンクロハジロ、ホシハジロ、マガモたちです。

パンくずを盛ったバケツを手にしたおじいさんが湖面に突き出た栈橋に立って、「来ーい。来ーい」と白鳥に呼び掛けました。白鳥おじさんの餌やりが始まりました。春菜ちゃんはお姉さんに連れられて栈橋の方に向かいました。細かく千切った食パンの耳が湖面にばらまかれました。

すばしこいカモは小さな体を器用に動かして春菜ちゃんが食べ

ようとした餌を横取りしました。棧橋の周りはカモの大群に占領されてしまいました。しかたなく家族のいる場所に戻った春菜ちゃんは長い首を水の中に突っ込んで水草を食べ始めました。

辺りは段々と暗くなってきました。

グワ、グワ、グワ、シュー。

日中、田んぼで過ごした白鳥が瓢箪池に帰ってきました。

「春菜、いつまで寝ているの。もうすぐ朝ご飯よ」

春菜ちゃんはお母さんの呼ぶ声で目を覚ましました。春菜ちゃんはお母さんとお父さんに、夢のなかで自分が白鳥になった話を聞かせました。

「春奈、今日の夜には夢の続きが見られるかも知れないわ」

お母さんが言いました。

「うん。楽しみだわ」春菜ちゃんが言いました。

「行ってきます」

元気な声を上げて園児バスに乗った春菜ちゃんは、お母さんに手を振りました。春菜ちゃんを乗せた園児バスが田んぼを通りました。稲刈りが終わった田んぼにはたくさんの白鳥がいました。

夕ご飯を食べていた春菜ちゃんが、お母さんに尋ねました。

「お母さん。朝、幼稚園に行く途中で田んぼを通ったらたくさんの

白鳥がいたよ。白鳥は何をしているの？」

「落ち穂を拾って食べているのよ」お母さんが答えました。

今度はお父さんに尋ねました。

「お父さん、瓢箪池で白鳥おじさんからもらう食べ物だけではお腹がいっぱいにならないの？」

「そうだね。体の大きな白鳥は白鳥おじさんからもらう食べ物だけでは足りないんだ。田んぼに出掛けて行って落ち穂を食べてお腹をいっぱいに行っているんだよ」

「白鳥って食いしんぼうだね」

「春菜もたくさん食べないと大きくなれないわよ」

お母さんが言いました。

「はい」

その夜。春菜ちゃんは夢の続きを見ました。

東の山の頂上付近が明るくなりました。瓢箪池の朝です。霧が立ち込めるなか、バタ、バタ、バタ、と白鳥の群れが次々と田んぼに向かつて飛び立ちました。黄色くなった田んぼのあちこちに白鳥の集団が見えます。稲刈りの終わった田んぼにはたくさん落ち穂が残っています。

年が明けて一月に入ると寒さが一段と厳しくなりました。瓢箪池の周りにはある田んぼは分厚い雪に覆われてしまいました。白鳥は食べ物を探ることができなくなりました。しかし雪に覆われていない

田んぼが何枚かありました。白鳥おじさんの田んぼです。田んぼの水を排水する栓が閉めてあるので雨水がたまって池のようになっています。

この田んぼには落ち穂がまだたくさん残っています。白鳥おじさんの田んぼに白鳥が殺到しました。田んぼは体の大きな大人の白鳥に占領されてしまいました。体の小さい春菜ちゃんは食べ物を探して辺りを歩き出しました。農業用の水路に柔らかそうな草が生えていました。

「あ、美味しそうな草が生えているわ」

お腹を空かせた春菜ちゃんは水路に降りて夢中で草を食べ始めました。辺りがだんだんと暗くなってきました。そろそろ瓢箪池に帰る時間です。お腹がいっぱいになった春菜ちゃんが家族のいる場所に戻ろうとしましたが、狭い水路から這い上がることができません。

グワ、グワ、グワ。「助けて！」

春菜ちゃんは助けを求めて声を上げました。お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さんが、水路にやってきました。

グワ、グワ、グワ。「どうしましょう。どうしましょう」

お母さんが悲しそうに声を上げましたが、どうすることもできません。

「おかしいな。こんなに夜遅くまで田んぼで白鳥が鳴いている。いつもなら瓢箪池に帰っている時間なのだが……」

心配になった白鳥おじさんは懐中電灯を持って外に出ました。

ミシ、ミシ、ミシ

暗闇のなかで人間の足音が聞こえてきました。

バタ、バタ、バタ。

危険を感じ取った白鳥家族は春菜ちゃんを残してその場を離れました。おじいさんは懐中電灯の明かりを水路に向けました。そこには灰色の翼をばたつかせている白鳥の姿が見えました。

「去年生まれた子供の白鳥だな。水路から出られないようだ。よし、よし。いま助けてやるぞ」

おじいさんは白鳥を抱きかかえようとしたが、人間のことを知らない春奈ちゃんは恐怖のあまりバタバタと翼を動かして抵抗しました。やつとの思いで白鳥を捕まえたおじいさんは、白鳥の翼が折れ曲がっていることに気が付きました。

「骨折しているかもしれない」

おじいさんは翌日、けがをした白鳥を段ボール箱に入れて野鳥保護センターに持って行きました。

「春菜はどこ？どこに行ったの？」

お母さんは毎日、行方不明になった春菜ちゃんを探しに田んぼに出掛けましたが、見つけ出すことはできませんでした。

四月に入ったある日。茶色の木箱を積んだ軽トラックが瓢箪池に

到着しました。荷台から降ろされた箱の扉が開かれました。箱から出てきたのは白鳥おじさんが野鳥保護センターに届けた白鳥でした。けがは完全に治って、灰色の羽毛も白に変わり、大人に成長していました。箱から出された白鳥は家族のもとへ素っ飛んでいきました。

「春菜？本当に春菜なの？無事でよかったですわ！」

お母さんは大人に成長した春菜ちゃんを抱きしめました。

「やっと家族全員がそろった。そろそろ出発するぞ」

お父さん白鳥が家族に言いました。

バタ、バタ、バタ。

瓢箪池に最後まで残っていたこの白鳥一家はシベリアに向かって飛び立ちました。

「春菜。いつまで寝ているの。もうすぐ朝ご飯よ」

春菜ちゃんはお母さんの呼ぶ声で目を覚ましました。春菜ちゃん

はお母さんとお父さんに夢の続きを聞かせました。

「春になると白鳥は子供を産むためにシベリアに帰るんだよ。シベ

リアで子供を育てて、秋になると、また瓢箪池にやって来るんだよ」

「そうだね。春菜は白鳥のこと、よく知っているね」

お父さんは驚いて言いました。

「だって春菜は夢の中で白鳥だったから、白鳥のことは何でも知っているよ」

「お母さん、行ってきます」

園児バスに乗った春菜ちゃんはお母さんに手を振りました。春菜ちゃんを乗せた園児バスが田んぼを通りました。白鳥が帰った田んぼでは田植えの準備が始まりました。農家の人がトラクターで田んぼを耕しています。四月の下旬には田植えが始まります。稲刈りが終わる十月になると、また瓢箪池に白鳥がやってきます。(了)